

会 議 録

会議名	令和6年度第3回西尾市図書館協議会
日 時	令和7年3月25日（火）午後3時～4時15分
場 所	西尾市立図書館 3階 会議室
出席者	富田副会長、今本委員、浅井委員、桐山委員、山崎委員、深谷委員、辻村委員、伊與田委員
欠席者	安井会長
市係等出席者	齋藤教育部長、齋藤図書館長、生田館長補佐、小林館長補佐、黒野主任主査、古居主任主査
傍聴者	なし

協議事項等については、以下のとおり。

1 開会あいさつ 富田図書館協議会副会長

2 議題

(1) 令和7年度事業計画（案）について

■令和7年度西尾市立図書館運営計画（生田館長補佐より説明）

1 基本方針について

図書館は、乳幼児から高齢者まで、住民すべての生涯学習の拠点であり、情報の入手、地域文化の創造の場所です。市民の交流の場として、「いつでも」「どこでも」「だれでも」利用できる身近な図書館をめざします。

また、子どもたちが本との出会いの楽しさや、知る喜びを体験できるよう、子ども読書活動を推進するとともに、利用者ニーズに応じた資料収集やサービスを提供します。

2 施策について

主だったものについてご説明します。

窓口等での貸出サービスでは、個人貸出点数の目標として、令和4年度に策定した「西尾市図書館運営基本計画」に基づき、市民一人当たり7.0冊としました。ただし、本数値は令和14年度の最終目標数値で、当面は令和9年度の間目標である6.4冊を目標にします。

また、「電子書籍及び電子雑誌の貸出サービス」については、図書館でのイベントでの周知事業はもちろんのこと、例えばふれあいセンターで開催されるふれあいセンターフェスティバルに出向き出張講座を開催することも考えていきつつ、利用数の増加を目指していきます。

利用促進事業は、詳しくは資料2で説明しますが、「西尾っ子読書フェスティバル」「図書館講演会」などのイベントや、ボランティア養成講座などを計画しております。

子ども読書活動推進では、「西尾市子ども読書活動推進計画」の第4次計画に基づき、「読書通帳」による読書推進や、資料1裏面 2ページにある「ブックスタート事業」などを行い、子どもの読書意欲の向上を目指します。

また、利用者それぞれのニーズに対応するため、子育て支援サービス、学校支援サー

ビス、高齢者及び障害者対応サービス、行政と連携したサービスなどを行います。

資料整備においては、資料の収集方針にそった、資料購入を行ってまいります。

蔵書管理においては、ＩＣタグ導入による貸出・返却のセルフ化を進めるため、今年度に引き続き、本館の既存本１０万冊へＩＣタグを貼付していきます。

おもちゃ館保存修理事業においては、７年度・８年度に修理工事が実施されます。こちらについては、後ほど議題（２）予算案のところでも説明します。

最後に、分館の運営につきまして３ページをご覧ください。

現在、吉良・幡豆図書館は図書館流センターに業務委託をしておりますが、３年間の契約が７年７月で終了します。そのため、８月からの事業者につきましては、６月に予定しておりますプロポーザルにて選定していくことになります。結果につきましては、この図書館協議会の第１回開催が例年ですと６月末か７月当初ですので、その席でご報告できると思います。

７年度、新規で行う大きな事業はおもちゃ館の修理事業のみとなります。毎年実施している事業を着実に丁寧におこない、講演会や講座等の内容を変えることで、新規の利用者を増やしていきたいと考えております。

図書館運営計画とは少しズレるかもしれませんが、今年１月からNHKの大河ドラマ「べらぼう」が放映されております。主人公である蔦屋重三郎は江戸のメディア王、書物のプロデューサーです。岩瀬文庫には蔦重が出版した書物などが多くあるため、「べらぼう」の開始直後から多くの来館者があり、図書館としましても、岩瀬文庫を訪れた来館者に図書館にも足を運んでもらおうと、べらぼう関連の本の展示も予定しています。こういった地道な努力を重ね、利用者数を伸ばしていけたらと考えております。

■令和７年度行事等計画（古居主任主査より説明）

１．全館共同開催行事について

４月２３日の子ども読書の日をPRするため、４月２３日から５月１１日まで西尾つ子読書フェスティバルを開催します。今年度のメイン行事は、絵本作家である岡田よししたかさんの講演会を本館で行います。岡田さんは、食べ物が主人公のユーモアあふれる絵本を多数出版されています。「絵本は楽しいと思ってもらえたらいい」とおっしゃっており、みなさんに楽しい絵本の世界を知っていただく機会にしたいと考えております。また、この他、おはなし会や工作の講座など、本館で６講座、一色学びの館で４講座、吉良図書館と幡豆図書館で各５講座を開催します。

読書感想画展、としょかんおやこ読書ノートの配布、読書通帳につきましては、今年度同様引き続き実施しています

２．本館の行事について

図書館講演会として郷土の出身者、ゆかりのある方の講演会を予定しており、講師、時期はこれから調整します。また、大人向け講座として、夏頃に古典文学講座を予定しています。大河ドラマ「べらぼう」に関係する講座を検討していく予定です。

子ども向け講座の３つの講座は例年通りです。

ボランティア養成講座につきましては、ボランティアさんの要望等も聞き、これから調整していきます。

読み聞かせ講座は、毎月２３日は読書の日としていることから、平日の２３日に保護者向けに読み聞かせ講座を行います。令和７年度は、お父さんにも参加していただけるよう土曜日の開催も検討しています。

3. 一色学びの館の行事について

8月の3日間、MANABIフェスタを開催します。大人向けの講座では、6月に現代詩の講座を開催します。これは、4月から6月に行う企画展示「『寄りかからず』の詩人は本当に西尾に居た！」に関連して開催をします。茨木のり子さんは、来年6月に生誕100年を迎えることから、それに向けてPRを図っていくものであります。

4. 吉良図書館の行事について

吉良図書館は主に歴史に関する資料収集を特色とした図書館で、歴史講座「江戸の本屋さん～「べらぼう」の時代に読まれた本～」を開催します。また5月に茨木のり子さんに関係する講演会を予定しています。

5. 幡豆図書館の行事について

幡豆図書館は、自然と植物に関する資料収集を特色としており、大人向け講座として5月に植物に関する講座「三河木綿のコースターを作ろう」を開催します。また、6月には元西尾市学校栄養士で『めざせ！ムシヨラン三ツ星』を出版された黒柳桂子氏の講演会を予定しています。

なお、吉良図書館と幡豆図書館については、業務委託の契約期間が令和7年7月までのため、行事計画は7月までとなっております。

最後に、その他協力行事でございます。10月25・26日に第20回にしお本まつりを予定しております。

(質問・意見)

- ・各館ごとの特色ある資料収集をしているということだが、幡豆は自然と植物で、他の図書館はどのような特色があるのか。
⇒吉良は歴史、一色は絵本です。
- ・オールマイティなのが本館ということか。
⇒そうです。

(2) 令和7年度図書館関係予算(案)について(小林より説明)

始めに1図書館費の構成比の表について説明します。1図書館費の構成比の中の内訳(節)で、番号と内容はそれぞれの節番号と名称ですので、令和7年度の図書館費で予算科目のない節は除いてあります。

内容について主なものを順に説明します。人件費関係の1報酬から8旅費まではご覧のとおりで、1報酬及び3職員手当については、会計年度任用職員の報酬単価改訂により増額となっています。

次に12委託料の増額については、施設維持管理委託料における人件費及び物価の高騰による影響や、図書館業務委託料でICタグの貼付作業を追加したことによる増加が主な要因です。

次に14工事請負費については7千184万2千円の増加で、内容は吉良図書館の空調設備改修工事とおもちゃ館保存修理工事の費用です。吉良図書館の空調設備は平成12年度に完成した増築棟の空調設備について、機器の使用から25年が経過しており、老朽化による機能低下がみられるため、設備機器を更新します。

また、おもちゃ館保存修理工事は令和7年度、8年度の2か年で保存修理工事を

行い、令和9年度以降に共用開始の予定です。令和9年度以降のおもちゃ館の活用については、読み聞かせの専用スペースとして定期的なおなはし会の開催や、おもちゃの修理を行うおもちゃ病院の開設、にしお本まつりなどイベント時での行事の開催を予定しており、子ども達や親子が集う場所を目指していきたいと考えています。

全体では、令和7年度4億4,259万2千円、令和6年度3億5,385万1千円で8,874万1千円の増、前年比25.1%の増となっています。

令和7年度当初予算については、3月21日に西尾市議会における審議により可決されましたので、先ほど説明いたしました運営計画と行事等計画に基づいて事業を進めていきます。

3 報告

(1) 図書館利用者アンケート調査の結果について（黒野主任主査から説明）

《資料4》

令和6年度図書館利用者アンケート調査の結果について報告します。調査対象は西尾市立図書館の本館、分館の入館者で、調査期間は令和7年1月17日（金）から2月18日（火）までで、本館と3分館で各館に来館した人にアンケート用紙を渡し、記入したものを回収する形で実施しました。

アンケート回答数は全体で1,338枚、令和6年度が918枚でしたので45%アップしました。各館において来館者への声掛けを増やしたことが回収率アップに繋がったと考えています。

【問1-1】

性別では全体の約3分の1が男性で、約3分の2が女性との結果でした。

【問1-2】

年齢層では20代が66人と最も少ない結果でしたので、この年代の利用者を増やすことが課題と考えています。

【問2】

図書館の利用頻度では、月に1回から2回程度が最も多くなっています。これは貸出期間が2週間で、その後延長した場合はさらに2週間借りることができるため、最大4週間借りることができることから、月に1回から2回の利用が多いと考えられます。

【問4-1】

借りたい本は揃っているかとの問いには、約7割強の人が満足している結果となりました。

【問4-2】

借りたい雑誌は揃っているかの質問ですが、雑誌の出版については厳しい状況で廃刊になる雑誌もあり、代替の雑誌を探すことが難しくなっています、雑誌については電子図書館の無料閲覧サイトがあるので、今後はそちらへの移行を考えており、雑誌の蔵書数は減っています。

【問4-3】

CDやDVDの購入については、現在はスマホでもYouTubeなどの動画が見られることや、図書館でDVDを購入する場合、著作権のライセンス料が高額なこともあり、あま

り多く購入することができない状況です。ライセンス料の平均額は16,000円です。

【問4-6】

貸出冊数については、全体の約8割が満足と回答しています。県内でも貸出冊数が20冊の図書館は少なく、西尾市立図書館の売りになっています。

【問4-8】

開館時間については、全体の約7割強の人が満足と回答しています。一方、自由意見では開館時間を延ばしてほしいという要望もあります。近隣市の開館時間が午後9時までの所もあることからこうした意見をいただいたと思います。

【問4-9 4-10】

職員への声掛けや、職員の対応についての質問では、全体の約8割が満足と回答しています。利用者への職員の対応はだいたい良いという結果だと思います。

【問4-14】

館内の清潔感や利用しやすさでは、西尾市立図書館は安城市や岡崎市など他市の図書館と比べると古い施設だが、清潔感のある利用しやすい施設との結果が出ています。

【問4-21】

おはなし会については、知っているが利用したことはないとの回答が多いことから、年代にもよるが、子育て世代へのPRをもっとする必要があると思います。

【問4-28】

読書通帳については、知っているが利用したことはないとの回答が多い結果となりました。読書通帳は、西尾信用金庫の協力により市内の中学生以下の子どもは無料で配布しています。高校生以上は1冊300円で販売しています。今後もさまざまなイベントを開催してPRしていきます。

《資料5》

利用者アンケートの自由意見では、施設関係が97枚、図書資料が105枚、図書館運営が120枚、職員・利用者が30枚、その他が69枚の421枚の意見をいただきました。

1 施設について

- ・駐車場が狭いや停めにくい、危ないとの意見は毎年ある意見です。令和3年度に駐車場の枠線を引き直して、出入り口付近に待機できるようにしたが、坂から下りたところがすぐに歩道で危ないことから、鶴城公園整備事業の一環として出入口を広げることを要望していきます。
- ・トイレが少し薄暗いとの意見については、令和6年10月に館内の照明をLED化し、1階のトイレを人感センサー付きの照明に変更したので、以前より明るくかつ便利になりました。
- ・もう少し閲覧できる席数があるといいとの意見については、コロナ前は椅子やソファがあったが、コロナで人との距離をおくようになり、間引きした経緯があります。コロナも収まっているので図書整理期間の時に館内のレイアウトを考えていきます。

2 図書資料について

- ・本の種類を増やしてほしいとの意見については、本館と分館で同じ本を購入すること

をやめ、内容が同じでも違う本を購入するようにしています。人気のある本や予約者数が多い本については、予約者数12人ごとにもう1冊追加購入することを取り決めています。

3 図書館運営について

- ・開館時間を延長してほしいとの意見については、安城市や岡崎市では午後9時まで開館していることから、こうした意見をいただいていると思いますが、今のところ開館時間の延長は考えておらず、本館と一色が午後7時まで、吉良と幡豆が午後6時までとしています。

4 職員の接遇・利用者のマナーについて

- ・ベンチでたばこを吸っている人がいるとの意見では、公園緑地課により敷地内に看板を設置しました。
- ・職員の態度が悪いとの意見がある一方、感謝の声も多数あります。利用者の方の捉え方という面もあると思うが、職員は今後も丁寧な対応を心がけていきます。

(質問・回答・意見)

- ・回収率が上がったのは何か働きかけがあったのか。

⇒置いておくだけでは書いてもらえないので、利用者への声かけを増やしました。

貸出をする方へは基本的にアンケートをお願いするようにしました。

- ・おはなし会の利用者が少ないとのことだが、保育園では未就園児の保護者と子どもを対象として、遊びの広場を各園でやっている。育休に入って子どもとずっと過ごしているお母さんたちはそういう場を求めているので、図書館のおはなし会が少ないのは意外だと感じた。保育園の未就園児の会の時に、おはなし会のチラシを置くこともできと思うので活用してほしい。おはなし会も手遊びを入れると、家でも遊ぶことができるのではないかと思う。

⇒チラシを置かせていただけるのであれば、どこかのタイミングでお願いしたいです。

手遊びはおはなし会でも取り入れていますので、絵本と紙芝居と手遊びがわかるような内容のチラシを作成します。

- ・ロコミや何か接点があるとスルーしないことがあるので、大切だと思う。自分の娘が東京で孤立して子育てをしていた時、地域のコミュニティや図書館の企画に参加して救われたことがあったと話していた。
- ・職員の態度について、前のアンケートでもあったが、自分が利用している時は皆さんとてもよくやってくれる。誰か心当たりがあるのか。

⇒利用者の方の捉え方ではないかと思います。少し言い方がきつかったり、冷たいと感じることがあるようです。

- ・本をいくつか持って歩いていると、このカゴを使っていいですよと声をかけてくれていつも気分良く利用している。

駐車場がイベント時に満車で停められないとの意見は、今年度のことだと思うが、文化会館が改修工事で使えないので一色でイベントをやったこともあったので、こういう意見が出たのかと思う。

⇒カーネーションホールを使ったイベントだと500人入るので、通常は広場として使っている場所を駐車場としても絶対数的に足りない状態です。

- ・イベント時に図書館を利用した人からの意見だと思うので、図書館だけでは解決できない問題だと思う。
- ・W i - F i は公民館でW i - F i を繋ぐやり方と同じなのか。
⇒本館、吉良、幡豆はキャッチネットワークを利用したW i - F i で、使用するには利用者カードの番号と任意で設定したパスワードが必要になります。フリーW i - F i ですが、何かあった場合に誰が使用したかを発見するために、利用者番号で特定できるようにしています。一度入れればその日はずっと繋がっています。
- ・図書館で学習や調べものをする時に使うということか。
⇒そうです。
- ・幡豆で読み聞かせを40年やっているが、始めた頃は専業主婦が多くて人数も27、8人いたが、この3月で4人辞める人がいるので4月からは11人になってしまい、今後どのようにやっていこうかと考えている。
読み聞かせの催しも図書館の2階でやっているの、子どもを呼び込むのが難しい。隣の部屋が学習室なので、扉も半分以上閉めていて、最初に来た子どもも怖そうにしている。どの子どもも始まる前は落ち着かないが、始まると楽しんでくれる。保護者もほとんどが共働きなので、休日は子どもと買い物や遊びにいくなどして過ごす人が多いように思う。
- ・私たちは6人でやっている。以前は4人だったこともある。来てくれる子どもも減っていると思う。保育園へ出向いて行く方法もあるのではないかな。
⇒各館のおはなし会のチラシを保育園へ配り、少しでも参加者を増やすようにしていきます。保育園へ行っておはなし会をやることも良い案だと思いますが、それが図書館への来館に繋がるのかということも考えなければいけないと思います。
- ・以前、図書館に来た時に利用者で職員に対してひどい言葉で怒っている人がいた。あんな言い方をしなくてもいいのにと思った。
- ・吉良でこうまの会というおはなし会をやっているが、参加者は少なくなっている。0人だったこともある。最近ではおはなし会の中で工作を取り入れている。
- ・ボランティア活動なので、費用が捻出できないと思うがどうしているのか。
- ・折り紙や色紙は図書館からもらったり、ストローや牛乳パックを使って作っている。おはなし会の会員にチョッキンさんという紙切りの達人がいて、年に2回おはなし会で紙切りのパフォーマンスをしてくれる。子どもからのリクエストに応えていろいろなものをその場で作ってくれる。2月にチョッキンさんが来てパフォーマンスをしてくれたが、その日は参加者が1人だった。その日に作ったものを図書館の人がポスターのように飾って、3月はチョッキンさんが来てこんなものを作ることをPRしたら、3月は小学生を含め多くの子どもが参加してくれた。図書館とタッグを組んで行事を盛り上げていけると良いと思う。

4 その他

【蔵書点検時の不明本にかかる調査について】（黒野主任主査より説明）

前回の図書館協議会の中で質問をいただいた、蔵書点検時の不明本について西三河8市と1町及び隣の蒲郡市へ調査を依頼したので、結果を報告します。

調査は1月31日時点の数字で、蔵書点検を年度末に実施する市の数字は令和5年度

ものです。調査は①蔵書点検による初回不明数から⑤ＩＣゲートの設置の有無までの５項目について聞いています。

蔵書数で西尾市と同じくらいの所は岡崎市で、西尾市が７８万７千冊、岡崎市が７９万５千冊です。初回不明数は各市バラバラで、多い所では安城市の５０１点、少ない所は幸田町の５点です。所蔵数に対する割合は０．０２から０．０６％くらいで、除籍数では、西尾市は１３２点なので他市に比べると多い方に入と思います。④除籍に至るまでの蔵書点検回数では、西尾市は３回で、令和６年度に除籍する本は令和４年度に初回で蔵書不明だった本で、令和５年度も６年度も不明となった本について除籍という判断をしています。他市の回数も平均すると３回から４回なので、除籍に至るまでの蔵書点検回数は他市と同じくらいです。

⑤ＩＣゲートの設置については、西尾市では令和１０年度の図書館情報システム更新時に、本館と同様に分館にもＩＣゲートを設置していきます。西三河地区では豊田市、岡崎市、安城市がすでに設置しています。碧南市はＢＤＳシステムという磁気テープによる無断持出防止システムを導入しています。

※副会長により西尾市図書館協議会を閉会。

４ 閉会あいさつ 齋藤館長